

日銀支店長が語る

経済よもやま話

第1回 経済の先を読むには

日本銀行仙台支店長 竹内 淳



予想と予測

未来を知りたい。そう考える人は多いだろう。未来を知っていれば、危険を回避出来るし、色々と儲けられるだろう。しかし、タイムマシンは発明されておらず、未来は予想するしかない。

予想の中でも、データに基づく科学的な作業は通常、予測と呼ばれる。ファンに怒られそうだが、競馬の勝敗は予想の域を出ない。一方、経済（景気）は予測する。予測の中でも天気は、広く知らしめるという意味で予報と称される。

天気予報は、一昔前よりも格段に正確な気がする。観測データが充実し、コンピュータの演算能力が飛躍的に向上したためだろうか。

経済予測の難しさ

他方、経済予測は昔も今も代り映えしない。それには理由がある。第一に、作業に利用する統計が不正確であったり、事後的に修正されたりすることだ。第二に、人々の予想が、現在を変えてしまうことだ。例えば、金利が上昇すると予想が増えれば、先取りして現在の金利も上昇する。そうなるとう経済の先行きに影響を及ぼす。第三は、立場や性格によって、予測者にバイアスがかかることだ。株式アナリストに強気派が多いのは、経済が良くなり、株価が上昇すると、商売（株式売買）が繁盛するからか。政府の予測は、楽観的と批判されることも多い。それで財政規律が緩むのは困る。しかし、政府が悲観的だと、上述第二の点とも絡むが、企業心理を冷やしてしまうリスク

がある。難しいところだ。

結局、特定の見方を鵜呑みにすることは避けるべきだ。しょせんは「予想（よそう）」だ。下から読むと「うそよ（嘘よ）」と書いてある。外れても、予測は下から読まないこと。

コンセンサス予測は良い予測

とはいえ、事業計画を立てるうえで経済をどう予測すべきか。お薦めは、エコノミスト予測の平均値の活用だ。日本経済研究センターは毎月、約40人のエコノミストの予測を集計し、平均値（コンセンサス）を公表している。さらに予測と実績を比較し、上位5人の優秀予測者を発表しているが、コンセンサス予測は、毎年のようにベストテン入りする（その理由は、同センターの解説を参照されたい）。

但し、経済の転換点を予測することは、どんなに優れた人でも非常に難しい。釈迦に説法だが、経営者の皆様におかれては、最後は自らの判断が重要ということだ。メインシナリオを立てたうえで、リスクへの備えも怠らないで欲しい。

竹内 淳氏 プロフィール

1967年（昭和42年）生まれ
ドイツ（デュッセルドルフ）出身。フランクフルト事務所
長勤務後、東日本大震災時には為替課長としてG7の協調
介入を指揮。その後、国際局アジア金融協力センター長と
してアジア各国との協力関係強化に取組んだ後、甲府・静
岡支店長、国際局参事役を経て、仙台支店長に着任